

# 伊賀市の文化財 139

## 市指定天然記念物 ギフチョウ (予野)

市内には、全国的にも珍しい動植物が数多く生息していますが、そのうちの一つに、ギフチョウが挙げられます。本州の里山に生息するチョウ目・アゲハチョウ科・ウスバアゲハ亜科に分類されるチョウの一種です。近年、里山の放棄、開発などにより個体数が著しく減少しています。ギフチョウは、黄色と黒のしま模様特徴で、成虫の体長は5〜6cmです。4月初旬〜中旬の2週間ほどの期間にだけ姿を見せることから「春の女神」とも言われています。雌はカンアオイなどの葉の裏側に卵を10個前後産みつけます。2〜3週間であらった幼虫はカンアオイなどの葉を食べて成長し、4回の脱皮を経てふ化し、約一カ月でさなぎになり、夏・秋・冬と一年の大半をさなぎの姿で過ごします。生息地を移動しないことや、幼虫の食草であるカンアオイ類が自生する地域でしか生息できないことから、生息地の環境悪化がギフチョウ絶滅の原因となりがねないと危惧されています。

平成21(2009)年に名張市が天然記念物の指定を行ったことを受けて、伊賀市においても調査検討が行われ、予野地区に生息するギフ



文化財課  
☎ 22・9678    FAX 22・9667

チョウを、平成25(2013)年2月12日に市の天然記念物に指定し、捕獲などを禁止することとなりました。また三重県では、平成29(2017)年3月31日に希少野生動物種に指定し、県内で捕獲などを行う際には届出が必要となりました。

市内でギフチョウを見つけても飛翔する様子を観察する程度に留め、貴重な生物を未来に伝えていきましょう。

# 上野総合市民病院だより

上野総合市民病院では、さまざまな部門があり、医師や看護師、その他の職種が連携し、チーム医療に取り組んでいます。このコーナーでは、各部門の活動を紹介します。

## ◆伊賀市健診センター

伊賀市健診センターは平成19年に市の健康推進施策の一環として整備されました。年々増加する高血圧、高脂血症、糖尿病、心疾患、脳疾患などの生活習慣病の予防やがんの早期発見、早期治療の取り組みを進めるための拠点施設で、年間約8,700人の人間ドックや生活習慣病予防健診を行っています。



生活習慣病は、自覚症状が出た頃には、病状が進



行していることが少なくないため、早期に体の異常を発見し、早期治療につなげるのが大切です。また生活習慣を見直し改善することで、病気の予防につながります。

健診センターは隣接する市民病院と連携しており、健診で異常が発見された際には、スムーズに二次検査に移行することができます。二次検査の予約も健診センターで受け付けており、共通の診断・医療機器を使用していますので、診断・医療機器の差異による微妙な誤差はなく、異常所見に的を絞った精度の高い二次検査を行うことができます。

ぜひ定期的に健診を受けられることをお勧めします。  
(上野総合市民病院 伊賀市健診センター 保田 泰宏)

# 伊賀びと IGABITO メール

今年度、市内県立高校3校で行った「IGABITO 育成事業」の内容を紹介します。

来年度も、引き続き将来の伊賀市を担う人材の育成に取り組んでいきますので、応援よろしく申し上げます。

## ◆あけぼの学園高等学校

生徒の成果発表会のオープニングで、2年生の有志が新たに取り組んだプロジェクションマッピングを披露しました。また、1年生は伊賀組紐体験、3年生は地元食材を活用したスープづくりなどに取り組み、伊賀地域の魅力を改めて感じる事ができました。



プロジェクションマッピングの披露 地元食材を活用したスープ

## ◆伊賀白鳳高等学校

地元企業の中外医薬生産(株)さんからアドバイスももらいながら、去年商品開発したアルコール消毒液「Pushmile」の 프로모ーションに取り組みました。この活動を通して、多くの生徒がこれまで身に付けてきたプレゼンテーションなどの技術に自信をもつことができました。



プロモーションの検討 商品の店頭広告

## ◆上野高等学校

1年生は秋に行ったフィールドワークなどで調査・分析した内容をまとめ、体育館でポスターセッションを行いました。2年生はさまざまな地域課題の解決策を考え、そのアイデアをプレゼンテーション形式で発表しました。



1年生の取組み 2年生の取組み

【問い合わせ】 総合政策課  
☎ 22-9623 FAX 22-9672  
✉ sougouseisaku@city.iga.lg.jp

# 明日に向かって ~差別をなくしていくために~

人権について考えるコラムです。

## 「まじめ」って褒め言葉? -浄化センター-

「おまえ、まじめやなあ。」私は子どものころ、そんなふうに言われることが、すごく嫌でした。

私の住んでいる地域は、同級生が十数人と少なく、仲間に入れないと一人ぼっちになってしまうような環境でした。そんな中、どちらかといえば融通がきかない性格の私は、友だちが何かいたずらなどをしようとすると、注意して止めるような子どもだったので、少し煙たがられる存在でした。友だちからは「まじめ」と言われ、みんなで遊ぶ時にも、誘われないこともありました。そんなことが度重なったため、友だちから仲間外れにされているような気持ちになり、「まじめ」と言われることがとても苦痛になりました。「まじめ」は、褒め言葉にも使われずし、友だちも悪気なく言っていたのですが、その頃の私にとっては、とても嫌な言葉でした。

残念ながら、今も世の中には人を差別する言葉があり、悪意を込めて使う人がいます。また、本人が

差別的な言葉だと知らずに使ってしまうこともあります。しかし、一般的に差別する言葉ではなくても、言われた本人にとってはすごく傷つく言葉や、言い方もあるのです。

それらの言葉がすべてなくなればいいとは思いません。言い方や使い方によっては、人を励まし、自信や勇気にかえる言葉もたくさんあるからです。どんな言葉でも、相手の立場に立って、どんな気持ちになるだろうと考えて使うことが大切だと、私は考えます。

人の気持ちを知ろうとすることはとても難しく、いつも一番良い言い方や言葉選びをすることはできないかもしれません。それでも、みんなが少しずつでも相手を思いやる気持ちを持てば、人を傷つけることは減り、笑顔が増え、明るい世の中になると信じています。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9684 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ